

絵。右から3人目がニランドさん。宇城市



宇城に吹く

日蘭の風

2023.6.19

①

世界各地で展覧会を開き、現地での創作やアーティストとの交流を続けるオランダ人画家のジョン・ニランドさん(56)が5月に初めて熊本を訪れ、約半月の間、宇城市に滞在した。制作の舞台に選んだのは、約140年前にオランダ人技師が設計を手がけた同市三角町の三角西港。国の在り方と日本人の暮らしが変革の潮流にいざなわれた明治期、西港や熊本医学校など熊本とオランダの関わりは深かった。ニランドさんの来熊を通じ、時を超えた日蘭交流の今に触れる。

三角西港にやってきた画家

5月下旬、汗ばむ好天の下、ニランドさんは三角西港の広場で崇城大芸術学部洋画コースの約30人と一緒に絵を描いていた。「グレイト」「ナイス」。キャンバスは芝の上に広げられた縦長の段ボール。学生たちははアクリル絵の具で思い思いの模様や文字を描いたり、持ち場を移動しながら描かれたものの上にさらに自らの表現を塗り重ねたりした。

3年の坂西涼羽さん(20)は「ニランドさんのタッチは自由で楽しそう」。2年

5月下旬、汗ばむ好天の下、ニランドさんは三角西港の広場で崇城大芸術学部洋画コースの約30人と一緒に絵を描いていた。「グレイト」「ナイス」。キャンバスは芝の上に広げられた縦長の段ボール。学生たちははアクリル絵の具で思い思いの模様や文字を描いたり、持ち場を移動しながら描かれたものの上にさらに自らの表現を塗り重ねたりした。

3年の坂西涼羽さん(20)は「ニランドさんのタッチは自由で楽しそう」。2年

の松本圭祐さん(19)は「与えられた時間は短く、直感で描く体験は新鮮」と興奮気味。ニランドさんは制作に没頭する学生らの様子を「美しく、面白かった」と表現した。「ばらばらだった彼らのテンションが、最後には一つになった」とほほ笑んだ。

若い頃、アムステルダム(古東竜之介、飛松佐和子)の美術大で絵画を学んだニランドさん。20年ほど前までは、ヨーロッパで名の知られたDJだった。約10年前、「より自身を表現する方法」を音楽から絵画に変

2017年の大分県竹田市以来2回目の来日。「オランダとゆかりある熊本の滞在をサポートしたのは、三角西港で発足したくまもと日蘭協会だった。

崇城大の学生たちとの活動のように、創作で重要視するのは他者への尊敬とコラボレーションだ。「エゴを捨てて取り組むことが大切」と芸術論を語る。この考え方は、芸術だけにとどまらない。「ウクライナで起きている戦争も、どちらが悪いではなく、エゴを捨てて考えないといけない」

25日、宇城市の不知火美術館で展覧会を開催。学生らと共同制作した作品も展示する。入場無料。

創作活動には「他者への尊敬とコラボレーションが大切」というジョン・ニランドさん
=宇城市

えた。自由な発想から生まれる色鮮やかな抽象画を描き続けている。

学生とコラボ「エゴ捨てて」